

【硬膜外鎮痛の手順】

○ お召し物・下着をおはずしいたします。

○ 姿勢

基本的には座位です。すでに陣痛が強くなっている場合などは側臥位をおとりいただきます。

背中を丸めるイメージで姿勢をおとりください。

○ 背中中の消毒をします

○ 背中にドレープ（滅菌されたシート）を貼ります

○ 皮膚局所麻酔の注射

これは少しチクッとします

○ 穿刺針を刺し、針に沿って細いチューブを挿入します

ここまでは、動かないように姿勢を保って下さい

○ チューブをテープで止めます

○ テープ固定が終わったらベッドに横になって頂きます

○ 点滴の入っていない腕に血圧計を巻き、逆の手の指に酸素モニターを付け、測定します

○ 鎮痛薬のテストを行います

○ 適時、鎮痛薬を追加します

ここからスタッフが一緒に姿勢をとりながらひとつひとつ声をかけます。ご安心下さい。

経膈分娩の場合	帝王切開の場合
(a) 血圧が安定したら、上着をお召頂きます。	(a) 手術が始まる15分ほど前に手術用の麻酔薬を追加します。
(b) 痛みが強くなったらすぐにお知らせ下さい。(医師又は医師の指示を受けたスタッフが背中に入っているチューブからお薬を追加します。)	(b) 手術後、背中中のチューブを抜きます。(チューブを抜いた後には、小さいシールをはります。シールはシャワーを浴びる時に外してください。)
(c) 分娩後、このチューブは抜きます。(チューブを抜いた後には、小さいシールをはります。シールはシャワーを浴びる時に外してください。)	